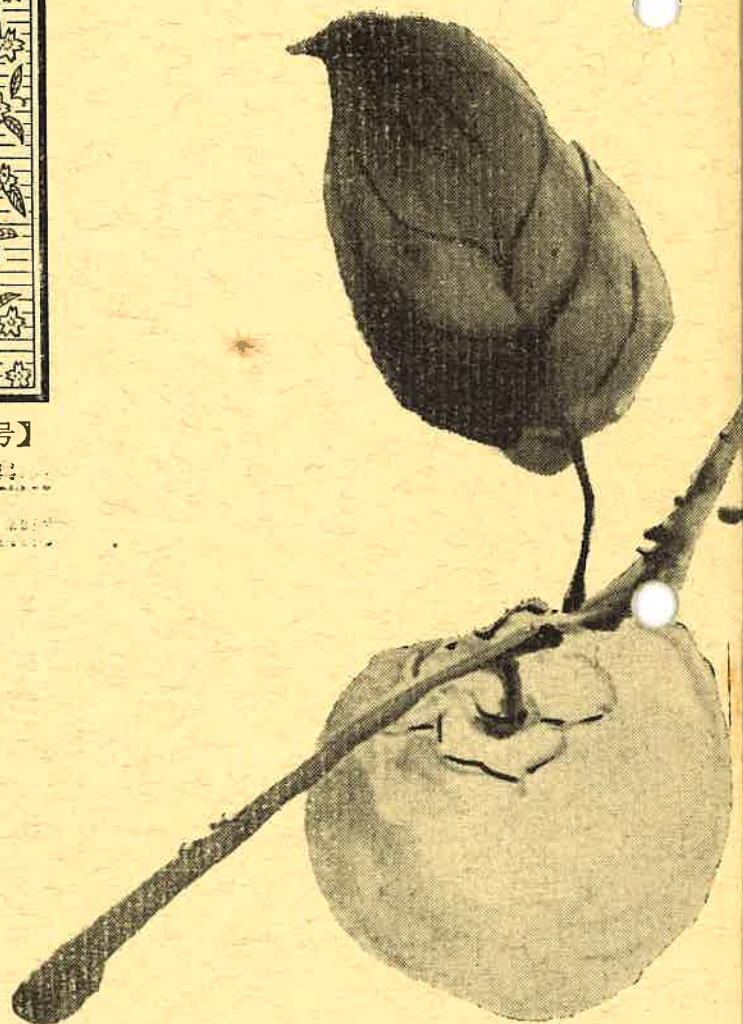


日本女子美術

複刊【第4号】

1959年



表紙題字  
表紙絵  
吉岡  
福田  
弥生  
幹子



就任の挨拶 佐藤 やい

明治参拾五年日本に於ける女医の親睦的な会合として発足された日本女医学会も第十三回総会に至つて会則其他が整えられ故吉岡彌生先生が初代会長としてお立ちになられ以来五十有余年間幾多の業績を先輩によつて紹介されて参りました。其間不幸戦災の爲め総てを失つた本会も、昭和参拾年に至り再発足することとなり国内的にも国外的にも女医の団体として確立され今後の活躍を目ざして出発せんとする時期に至つた今日吉岡会長を失つた事は我々会員にとつて比の上もない不幸であり一大損失でありました。全会員等しく哀惜の情に堪えません。然し我々は徒らに悲しみにくれて居る時代ではなく一日も早く故会長の御主旨を継承し女医としての使命を全うし之を時代に応じた女医の団体として次の世代に譲るべき責任を痛感するものであります。

昨年総会の役員改選期に於て故吉岡彌生先生は御病床中ではありましたが我々は会長に選挙決定致しました。不幸先生は今年五月二十二日夜に御他界になりました。次期役員改選期までには当残余二ヶ年の空席を如何にすべきか理事會及評議員會に於て検討されましたが、結局總會に於て会員諸姉の総意によつて決定する事となり前年度の会長選挙に際し次点者を以つて一応残余期間の会長にという事で私が決定されたわけでありました。偉大なる吉岡会長の後任として到底御引受出来る私でない事もよく承知致しておりますが然し皆様の総意を無にする事も忍びえず自己を省みず御受け致したわけでありませぬ。此の上は絶大なる皆様方の御協力の下に出来得る限りのベストを捧げたい覚悟でございます。勿論本會は日本全国に活動される女医の唯一の皆様方の団体でございますから常に忌憚らない御意見を中央に御連絡頂きまして会員諸姉の最も親しみのある女医の中心団体として行きたいと考えるのであります。

殊に來る一九六二年にはマニラに於て國際女医會總會が開催され昭和三十五年には之に先立ち獨逸國バーデンバーデンに於ける評議員會も間近となりました。女医の數に於ては世界第一位を占めると云はれる日本女医学会からもこの機会に多くの参加者を送り度いと今から期待致して居ります。

今後は女医の唯一の団体的機関としての本會の爲めに及ばずながら微力を捧げ度い覚悟でございます。

終りに会員諸姉の益々の御発展を祈り今後の御協力を希う次第であります。

(昭三四・一二・一記)



新会長を迎えて

副会長 龍 知恵子

世紀の女傑ともいうべき偉大なる女子医学教育の開拓者であり、最も敬愛する大先輩であり、そして吾が日本女医学会々長であられた吉岡彌生先生の御逝去は、私共がかねて覚悟していた事ながら、今更に哀惜の情に絶えない事でありませぬ。今後は先生の六十余年の御努力の御生活を忘れず、お互に日本女医学会々員としての本分を尽し、せめては先生の御霊をお慰め申上げたいと願ひいたします。

後任会長の詮衡という問題が今年の總會の最も重要な議題でありました。が、非常に円満に短時間にこの議事をすます事の出来ました事は、私共会員にとつて最も喜ばしい事でありました。

庶務報告の項に記載いたしました様に、七、九、十月の三回の常任理事會及び理事會でもいろいろと意見も出ましたが、今回はまだ役員改選の時期ではなく、会長の御逝去の爲めの補欠補充でありますので、この様な場合には一般の常識として、近々の会長選挙の際の次点者を推薦する事が最も妥当であると考えられます。そこで理事會でもこの方針に従つて後任の會長を佐藤やい副會長にお願いする事に決定いたしました。

十一月八日正午より開催いたしました昭和三十四年度の評議員会におきましてもこの方針で会長を選ぶ事にいたし、満場一致にて副会長を後任会長とする事にいたしました。

才四回総会におきましても、ぜひ会員諸姉の御賛成を以て、佐藤副会長を会長に推挙し、承認していただきたいと存じまして潜越ながら私が発言いたしましたところ、これも満場一致にて、お一人の異論もなく議決いたしました事は、全く喜ばしいかぎりでありました。

今更私が申上げるまでもなく佐藤新会長は昭和廿九年に日本女医会が新発足いたしましたからは、全く会の発展のために寝食を忘れて東奔西走して来られました。その熱意があつたからこそ数年ならず全国に支部を持ち、三五〇〇人の会員を持ち日本女医会の確固とした基礎をつくる事が出来たのであります。尚永年吉岡先生の片腕として有能な秘書役をつとめて来られた円満質実な人格と、練達された事務的手腕とを合せ備えられた佐藤やい姉は、日本女医会々々長として申分のない人物であり、新会長に依つて日本女医会の将来の発展は既に約束されたものと信じます。私共はお互の立場で最善をつくし、新会長を中心に日本女医会を有意義な婦人団体といたすべく努力いたそうではございませんか。

終りに新会長の御健康と御奮闘を切に祈ります。

(三四・二・五)

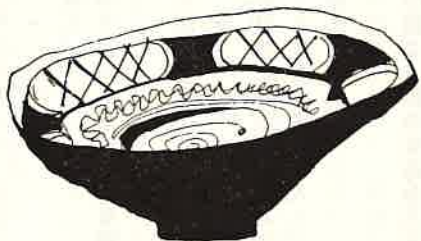
## ご挨拶

吉岡博人

今秋の日本女医会の総会において会員の皆様にお目にかゝる機会をえましたならば親しくお礼申上げたいと思つておりましたが、あいにくその頃福岡に開催されました日本医学図書館協会総会に出席しておりましたので、その意をえず失礼いたしました。そこで紙上をかりここに一言ご挨拶を申し上げます。

日本女医会と母との関係は今さら申すまでもありませんが、日本女医会が誕生して六十年、その間終始会長の席を汚しておりました母に対し、つねにかわらぬご協力をいただきました会員の皆様のご芳情に対しふかく感謝の意を表する次第です。ことに晩年、病床におりました母の名で種々の経緯をへながら無事に今日の会に発展させていただきましたことに対しては、厚くお礼を申すわけであります。その上、葬儀に際しましては、ご遠路ご会葬いただき、また全国会員御銘々のご芳志を、そのまゝ集めて多額のご香典をいただきましたことは感謝の外はありません。

このご芳志に対していさゝかなりと微味のあるところを表明したいと考えておりましたところ、今回日本女医史の編集に着手されるとうかがいました。日本女医史は、ある意味において、日本女性の解放史でもあります。そういう点から、母は生前その完成をつねに念願し、私も他少その点に思をひそめ、若干の文献を発表したこともあります。したがつて、この際、お供えいただきましたものもそのまゝ改めてご寄附申上げ、この事業達成の一部にしたいと存じます。ご受納の上、母の希望の一つでも実現すれば幸甚と考えます。これをもつて、ご挨拶に代えます。



# 日本女医会第四回總會記録

## 庶務報告・国際女医会報告・会計報告

### 開会の挨拶

副会長 川那部喜美子

本日は、遠方から御参加の方々も御一緒にこうして盛大に、才四回日本女医会総会を開くことが出来まして、まことに御同慶の至りと存じます。私はいつも、この総会が開かれます際に、思わずその一年を願うのでございますが、今年におきましては、最大のことは、申す迄もなく、会長吉岡彌生先生の御逝去でございます。先生は、現代女医の大先達として、私共女医に、立派な垂範をお示し下さいました。時を経るにしたがい、敬慕の念がいや増す思いがいたすのでございます。只今、承りますと、本会支部結成も今年にて完了、即全国に支部が出来上りまして、会員数は三、三二〇名となりました由でございます。益々大きくいたしますは元より、今後は、相互の理解を深め、協力合に努め、全女医の会として、充実したものにしてまいりますことこそ、私共本会員のなすべき

ことであり、又、それが本会結成を企画された、吉岡先生の御志をつぐことになるのではございますまいか、と私は考えるのでございます。

さあ、これから、こゝに掲げられました議題につきまして、皆様と議してまいりたいと存じます。本会合が有意義に終わりますよう皆様の協力をお願い申し上げます。これをもって開会の御挨拶いたします。

### 總會記録

昭和三十四年十一月八日比谷松本楼において開催する。出席人員 九十四名。

大村ひさえ氏の司会によつて始まる。

1. 開会の辞 川那部副会長によつて述べられた(記事別項)

2. 佐藤副会長の挨拶 只今、川那部副会長より会長代理開会の御挨拶があつたが、私が、今立つたのは吉岡博人先生よりの御礼の言葉と御挨拶を皆様に申上げるためである。(博人先生記事参照)これより總會の議事に入る。

3. 庶務報告 森千鶴子氏より報告あり(別項)

4. 本年度の物故者に対して黙礼。

5. 国際女医会に就いて 佐藤副会長より国際女医会入会

後の状況報告あり、この国際女医会との交渉その他については定方、小野、新堀等諸先生の御援助と御骨折りで仕事は順調に進んでいる。くわしい報告は小野先生にお願いする(記事別項記)

6. 会計報告 山口理事によつて報告あり(別項)

なお会計年度はこれ迄本会では秋になつていたけれど、これは他方面と同様来年度から四月としたいとの議あり。決定す。

7. 会長の件 この件に関し竜副会長より、彌生先生が御逝去になつて、本会々長は空席になつている、本邦においては多くの場合は次点者が操上ることになつている。これに関し八月、九月、十月と常任理事会を開き、満場一致で次点者佐藤副会長をおすことになつた。しかし御承知のように定款が粗雑であるので、これによるとやはり總會で定めるといふことになるが、本日の評議員会でも皆佐藤先生を推している。佐藤先生の御人格、

御努力により日本女医会が今日の発展を見たことは誰も知つている所である。本日のこの總會において、皆様に佐藤先生を御推挙いたゞいて満場一致会長にあおぎたいと思う。

以上の言があつて、満場一致佐藤先生を会長におおぐ件決定す。

佐藤会長の挨拶(別項)

8. 会費値上の件(真鍋理事)

本会再発足以来年間三〇〇円になつてゐる。本年度は支部結成のため本部役員が行つて集めたものも多いので七〇%の集り方であるがこれは特例といわねばなるまい。しかもこの額では特別何もしないで収支丁度ということとで、これから国際的なことも多くなり、有意義なことをする必要もあり、あまりにも少額と言いたい、それで最低五〇〇円は必要であると思う。今までは日本女医会三〇〇円、国際女医会が一五〇円としていたのを、一本にまとめ日本女医会員はすべて国際女医会員として五〇〇円にしたいと思うが御賛成をいたゞきたい。こゝで五〇〇円では多額であると言ふ意見もあつたけれども多数決で五〇〇円に決定した。

以上によつて既定の議題は全部了つたが、まだ少し時間があるので参議院議員山本杉氏より会員諸氏に対し挨拶があつた。(別項)

(一) 總會の時期についての検討  
春がよい、秋がよい、との議が出たが医者は秋が暇なことは古来同様であるから總會は秋の方が出席率がおおか



ろうというので結局秋にきまつた。  
 (三) 日本女医史についての報告(福田理事記事別項)があつた。それに関連して愛媛県の綾井章江氏から「日本女医史は私と同級の故多川澄子氏がすでに筆をおこしておられたが不幸病逝されたけれどその間の事情をよく御存知の福田氏が終生の仕事としたいといわれるので、誠に我が意を得たりの感がある大にやつてほしい」と激励された。

(四) 閉会 小俣理事から閉会の挨拶があつた、時に四時十分、これから催される懇親会場の陶々亭に向つて、秋の日ざしもかたむいた日比谷公園の木立の中をビル立ちならぶ街に向つて三々五々みな睦まじそうに歩いて行つた。  
 (この記事は会員笠井姉によつて、詳しく記録されたものから抜萃したものである。姉に対し厚くお礼を申上げる。)

## 昭和三十四年度庶務報告

森 千鶴

会 議

主要事項

十一月 才三回日本女医会総会開催

緊急常任理事会

国際女医会の件

次期国際女医会議へ提案する議題

国際女医会役員の内

国内連絡書記の件

規約について

十二月 緊急常任理事会

次回国際女医会議「老令婦人について」に対する解答のまとめ

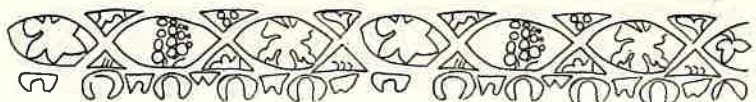
会誌二号発行

一月 理事会

新年会 於玄海

二月 常任理事会

国際女医会に關して  
 山本杉氏後援会の件



七月 理事会 評議員会総会開催の件  
 会長の件

国際女医会費値上げの件

七月七日秋田県支部結成

(吉岡ふさ出席)

七月十二日北海道支部結成

(吉岡ふさ 竜知恵子出席)

七月十四日都政を明るくする会

へ佐藤やい出席

総会当日の件

日本女医史編輯について

国保問題講演会についての臨時

理事会中止の件

評議員会総会当日の件(会長の

件、会費値上げの件、女医史の

件

十月 理事会

国際女医会に關して(一九六〇

年—一九六二年国際会議につい

て小野春生

以上全国六十七支部

会員数 三、三二〇名

三月 理事会 支部結成の件(文京支部  
 京都、北海道、秋田、山形)  
 四月 常任 日本医学会総会の件其他  
 理事会 国際女医会に關する件(加  
 入者追加の件(一〇〇名追  
 加))

北海道、秋田、山形各県支  
 部結成に關して

四月一日—五日才十五回日

本医学会総会開催

吉岡会長当会名誉会員に推

薦される

五月 理事会 国際女医の件(国内連絡書

記を小野先生に)

山本杉氏有志後援会に關し

て五月二十二日吉岡彌生会

長御逝去遊ばされる

会誌三号発行

吉岡会長逝去の件

六月 常任 才四回日本女医会総会及評

議員会開催の件

国際女医会の件

以上全国六十七支部

会員数 三、三二〇名

# 国際女医会報告

小野春生

本年五月に国際女医学会の書記をする様にと理事の皆様がおつしやいますので定方先生に助けていたゞいて及ばずながらさせていたゞく事になりました。

さつそく本部へ老令婦人に関する *Questionnaire* を送帰しました。その内容は婦人の定年々令、誰がその後の面倒を見ているか、老人ホームに関して、病気は何が多いか、等々世界各国での老婦人に対するデータを集め、一九六〇年九月七日から十日まで開かれる *Baden-Baden* の国際女医学会理事会の演題の資料でした。同時に日本での老令婦人に対し関心を持つてゐる題を提出しました。本年六月 *Geneva* で開かれた執行委員会で次の問題についての *Discussion* を *Baden-Baden* での *Discussion* へつて参りました。

- 一、社会及家庭での老令婦人の位置
- 一、老令婦人の労働地位と定年々令

- 一、身体の病気
- 一、精神障害

一、老令婦人に対する管理又は世話

同時に八月から九月にかけてヨーロッパで開催される会議は、

期	場所	会名
8月14—19日	Edinburgh	Int'l Congress Clinical Chemistry
8月24—27日	Basle	6th " " Internal Medicine
8月28—9月1日	Vienna	" " Individual Psychology
同	上	6th " " Diseases of the Chest
同	上	" " Histochemistry
9月1—7日	Italy	" " Embryology
9月1—3日	France	" " Nephrology
9月4—9日	Paris	10th " " for Cell Biology
9月5—12日	The Hague	4th " " Criminological Congress
9月8—18日	Athens	17th " " Cong History of Medicine

9月14—18日 *Vienna* 13th Cong Int'l Medico-Athletic Federation

9月16—26日 *Berlin* World Medical Association

9月18—25日 *Rome* 3rd Inter-European Cong. Cardiology  
 只今この理事会へ日本から届出の理事の代理が参加してもよいか問合せ中です。もしよいとなれば皆様の中で日本女医会を代表して出席なされたい方がありましたら御連絡下さい。

- 一、一九六二年フィリッピンの総会の演題は
- 一、臨床医と親の教育、特に不良少年に
- 一、重点をおいて
- 一、癌

をとり上げる事に内定致しました。一九六二年は総会でございますので皆々さんちがつて御参加下さい。

十月にはフィリッピンの *Del Maundo* 先生(国際女医学会の副会長)が欧州の帰りに日本へ二三日およりになるとの事でお待ちしましたが不幸にして飛行機がおくれ羽田へお迎に行つて下さった、菅先生、宮坂先生、小林先生と二十分位お話をしてすく

に参りました。由、日本の皆様とよろしくご挨拶を。

我が書記にちやびつたラジックわさか半年、相手の国が違ふので文通に苦悶がかりますのでやつと軌道に乗つた所です。今後はもつと文通をし皆様にも御報告致します。他国の女医が何をしているか、どんな問題があるかがわかります。もしお聞きになりたい事があればお申し出になつて下さるがや。

## 昭和34年度会計報告

### 日本女医会費

収入の部	金額
会費	721,050
雑収入	130,299 (香典料、利子、立替金)
計	851,349
支出の部	金額
通信費	174,872
消耗品費	4,173
印刷費	154,662 (会誌二回発行、其の他)
備品費	24,790 (戸棚、机、椅子)



雑費	98,284	(会合諸雑費、見舞金、香奠料事務員特別手当)
給料	213,700	
出張費	42,360	(支部結成出張費)
立替金	111,020	(香奠料、他)
暖房費	10,000	
合計	833,861	
差引残高	17,488	
前年度分繰越高	304,308	
合計	321,796	

国際女医会費

収入の部	
会費	39,550
支出の部	
通信費	3,942
雑費	400
本部会費	50,640 (昭和33年度分)
計	54,982
差引不足高	15,432

お礼のことば

— 皆様のご声援の  
なかにある私 —  
山本 杉

皆様に多大の御支援と御配慮を頂きました選挙も昨日のことのようにおもいますが、もう半年の月日がたつております。半年の間は、当選者に事故のあるとき次点が当選になるという規定が選挙法にありますので敵密には、当選御礼のことはしてはならない期間ということになっております。これに従いますと、ようやく御礼を申上げてよい時期がきたということでございます。

本当に皆様ありがとうございました。ここに厚く御礼申し上げます。

国会一院制度のなかの参議院の性格上、議員に広良識とその社会的職的背景が要求されるのは当然のことでございますが、私は当選以来短日月ではございますが、いろいろの問題にぶつかります度に、皆様の御声援、御支持のなかにある自分を思わずいられません。どうぞ今後とも皆様のお心に添うよう努力してまいります。

前年度分繰越残高	71,989
合計	56,557
資産の部 (昭和34年9月30日現在)	
富士銀行預金	251,367
安田銀行預金	5,596
振替預金	118,070
現金	3,320
資産合計	378,353

◎会費をお納め下さい。

会費未納の方へは別紙明細書と振替用紙を同封いたしました。至急お納め願います。

尚三十五年度からは会費五〇〇円(総会議事録に説明してあります)に決定いたしました。御送金下さいます折はおまちがえなきようお願いいたします。

◎日本女医会名簿をおとりください。

名簿がやつと発行できる運びとなりました。日本女医会再発足後はじめての名簿で不備なところも多いことと存じますが次回発行までにより正確なものにしたいと思っております。末尾に住所移動届が挿入してありますから御利用下さい。

で、格別の御指導御鞭撻を願う次第です。

世界のきびしい動きのなかで世界観の如何に係らず、エネルギーの革命を土台に、経済機構の再編成が行われようとしていることは、大きな現実でございます。そのなかにあつて一番大きな日本国民自体の関心事としてクローズアップしてきたのが、医療制度の変革でした。国のたてまえは自由経済、また国民を幸福にする経済力は自由経済でなければ得られないのになか、この変革の才一陣をきり開く世紀の問題が医療制度改革でした。私はこの問題にぶつかり日夜思い、日夜また新しい勉強にふみこまなければなりません。皆様もまた国民皆保険完全実施をむかえて開業医のお立場で、この問題に切実な方々であることはいまでもありません。この時代に即応して、よい私たちでこれが解決されてゆくために御一緒に考えてまいりたいと存じます。参議院でも、この問題解決の緒にもと医療問題特別調査会が生まれました。「この度、政府は甲乙二表の存在による混乱を防止し、医療の矛盾と不合理を解決するためすみやかにこれを再検討し、懸案となつてい社会保険診療報酬点数表を一本化することによつて、保険医療の運営を円滑にしなければならぬ」という申合せをしてこの問題ととりくんでおります。また、私の医療機関の金融公庫の設立を期して今全力をあげて努力していま

# 国際的医学の 動きについて

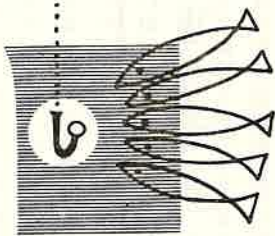
東京で三年前でありました。日本国際医学協会にて研究会がはじまりました。各国の医師の方々が御出になり実に有効な会でした。月に一回、東条会館で会があります。言語は英、独逸、日本語でありました。独逸の医師先生方が多いようでありました。日本の先生方も多いようでありました。が女医先生方は、数名でありました。でも男女の別なく有益な医学会であります。外国の先生方の医学的御意見を聞き有難く思いました。

この会では外国の先生方は少いようであります。でも日本の各大学の教授の先生方が専門の尊い講演をして下さいますので有難く思います。

国際医学の仕事に付き米国にて御目にかゝつた先生方の事をよく思い出します。ことに伝染病疾患の予防につき、デフテリア、猩紅熱等につき其の尊い研究や実験をされたニューヨークのシツク博士、シカゴのデック博士等にお目にかゝる折を与えられ直接に御話を聞きました。大変に昔話をいたすようであります。それは大正十二年でした。ミシガン大学小児科科長のカオイ教授が私のようなつまらない女性でありましたけれども、男女の別なく、また国籍をとわずたゞ人類

## 猩紅熱の病原菌研究

シツク博士の有益な助言など



定 方 亀 代

す。私はこのような特に医療制度に関係のある問題ばかりでなく一般の厚生、労務行政または母子保護対策、婦人教育問題等には特別の発言をしたいと思っております。また青少年問題婦人教育をふくむ文教政策にもたづさわり努力してまいりたいと思っております。国の内外はまことに多事多難の折でございます。皆様の御健康と御多幸を念じ上げますとともに私への変らぬ御鞭撻を願上げてひとこと御礼のことばとさせていただきます。

求人	種目	医師
	場所	東京都荒川区尾久町四丁目 東京女子医大才二病院
	科目	各科一名以上 経歴を問わず
	資格	日本女医会々員
俸給	面談	







の尊い生命の為に引き続き貢献する医師として、あの有名なシカゴのデック博士に紹介して下さいました。カオイ教授の命令で、ミシガン大学伝染病院で猩紅熱の病原菌を研究する事が出来、デック博士の溶血連鎖球菌につき同じ結果を得ましたので其れを発表する時に、デック博士がシカゴから御出下され、カオイ教授と共に有益な話をして下さいました。其時デック博士が、溶連菌を培養するには人血、山羊血、猿血、普通の猿ではいけないチンパンジーでなくてはいけないと教えて下さいました。山羊とチンパンジーは人間と同じような血液を持つて居ると教えられました。

デック博士の奥様も医師で御夫婦一致協力して注意深く研究され、尊い発見をされたかと思えます。奥様個人的に話し、其尊い学術的人格にせつし感謝に堪えませんでした。其時すでに猩紅熱予防注射が出来て居りました。

其後大正十四年の春でした。ニューヨークに行き、数ヶ月コロネル大学の小児科で職員として働かせて頂きました。カオイ教授の親切なる御紹介により、小児科として権威者ドクトル、シユロース。ドクトル、ホヘグの御指導を受け愉快に働かせて頂きました。

また、カオイ教授は、週に一回はマオントサヤナイ病院の小児科医長のシツク博士の廻診の時に行くようにお計い下さいました。デフテリヤの予防注射を、米国で一番はじめに実行した大学病院で、其注射材料はドクトル、シツクがミシガン大学病院に送つて下さいましたので、私共小児科が予防注射をさせて頂きましたので其御礼に行きました。毎週出席させて頂き尊い勉強をさせて頂きました。其時ドクトル、シツクは私共医師は真に患者を思い治療しなければならぬ、一から十迄すべて自分でしなければいけない、殊に其患者に付文献に発表したい時は、人の仕事をかき集めてどのように沢山だしても価値がない。一例でも誠実にされた治療は尊いと思う、私共其ような尊い文献はくり返して幾度も読むと仰せになり、私共が誠実な真剣な医師として働く様に教えて下さいました。私は長年此御言葉を思い出し感謝して居ります。

## 水害地の悲惨に想う

佐 堂 と き

十月二日、東京を発つた汽車は名古屋郊外にさしかゝつた。夜明けと共に朝霧の中にかすんで見える湖は悲惨な水害地であつた。

熱田駅着。各々が荷物を負つて面を伏せがちに或いはキョロキョロとあたりに眼を配らせ乍ら降りて行く、何と云う哀れな状態であろうか、とり残された島に見える瓦屋根の家並みだけがかつての街の所在を示しているだけだ。熱い雨がポロリと頬を伝わる。天災と云うものゝ恐しさに足は重たく心は狭い、降りしきる雨を防ぐための備えに屋根の上にはフトンやむしろが一面ひろげられてある。間もなく名古屋駅着。親戚を訪ね西区にあるこの周辺は心配もすつかり払い退けられる程比較的災害の少かつた処で皆無事であつた。四日市に居る親戚の安否を気づかい乍ら連絡に骨を折つた。身近の者の安否を気にし乍らもふと心にかゝつたのは日本女医会の先輩後輩のことであつた。何故一言本部の佐藤やい先生や竜先生に連絡せずに来てしまつたのかと自分丈の事にうかつにこゝまで来てしまつたことの愚かさを後悔したが、こういう時はやはり日本女医会員として自分がかつての所存を認識していなかつた為ではなかつたか、と至らなかつたことを悔い正している。あわてふためき名簿も持たずに己れの身近かな者の安否を気づかうだけで水害地の諸姉に何等御見舞いの言葉もなく東京まで帰つて来たことを今更紙上で深くお詫び申上げる次第である。今後はやはり日本女医会員の緊密な連絡と親睦を固めて行く様に努力して行きたいと思つた。己れの心の持ち方が一番大事である事を悟つた次第である。

歩 一 歩 前 進 — 来 春 着 手 —  
編 さん 委 員 会 も 出 来 上 る

福 田 幹 子

日本女医史編集のことについては度々本誌上に於いて、又いろ／＼の会合の席上においてお話し上げておりますが、かけ声ばかりで中々発足に至らず私は皆さんに申訳なく、又自分でも恥しい心で一ばいでございます。

しかし一歩一歩前進しておりますことに偽りはありません。昨春秋の總會の折に、女医史これは我々女医又は女医のみでなく所謂職業婦人の社会史でもあるのだから、日本女医会の名において発行しようという決議が出来、それから一年の間に編集委員（八名）を選出し、不肖私が委員長というものになつて、時々委員会を開き、編集方法、資金調達方法、販売（又は配布）方法を協議しました。かくて本年の總會において、費用のうち編集費を日本女医会から月々若干支出し編集に着手するということがまりました。

一、編集方法 編集者を選定し、その人に編集を依頼し編集委員がこれに参加して一定の時期を定めてこれを監修する。編集人の資格としては著書及び史学に関する特殊の文学的才能と技能を有する人を選ぶ、しかもその道の経験者であり、人格者たることを必要とする。そうしてその編集人は内容上の構想その他について委員の意見を聞いて進行する。

二、女医史の構想 近代女医史に重点をおく。

1. 上 代 明治以前においては女<sup>おんないしや</sup>医者（中条流）はあつても女医はない前史的附加として扱う。

中 代 明治大正時代であつて、女が医者資格試験を受け得るに至る迄の時代、女の医育機関の問題等。

現 代（昭和） 殊に戦後の今日は殊更に女医をあげつらう程、女医は珍らしい存在ではなく医師に女性もあるけれど別に女性の医者だからといつて不思議に思う人もない。医学校はどこでも女性の入学は出来る。かくの如く自由になつたことには大なる歴史がある。

右の意味において男性と同等にまで持つて来たことは明治以後の女医開拓史であろう、同時に女性解放史である。

以上の如く女医史は一般女性の社会進出とにらみ合せて編集する、かくて出版の暁は各医育機関は医師史の材料として必要とし、各女子教育機関は女性発達史の資料として役立つほどのものにした。

三、資料 女医史編集の必要といふことは昭和の初めごろから日本女医会の席上で、又日本女医会雑誌の編集会の折等で話し合ひ故会長も大に賛成されて、一同その資料を集める事に力を入れ、故多川女史が中心になつて、少しづつでも筆をおこして置こうといつて戦前に何回か医事公論ついで日女医会雑誌に掲載された、それから戦争になつて中止のやむなきに至つた、けれども女史はこの集めた資料の貴重なるを思い戦時中はこの資料を持つて茨城県下へ疎開され又戦後は交通の不便な中を東京へ持つて帰ら

（次頁下段へ続く）

# 日本女医会の力

大村 ひさえ

女医の力は大きい、女医さんはおそろしい、いや日本の女医会の力は素晴らしいと医師会員諸氏からいわれて一寸うれしくなり、日頃のまや／＼がすこし晴れたような気がしたのは今春の選挙成績を見たときのことであつた。

あの時、日本医師会からは最初の推薦候補として認めてはくれたが、後から続いて推薦者が現われ、次ぎ／＼とその名前が全域に通された。最も封建性の強いといわれている医師会である。男女の差、鼎の軽重に相当の動は当然であつたとしても、いよ／＼終盤戦となつて、誰々が当選圏内に入っているが何某が今当落線上にある。各位は最後の努力を……。などという激ましても飛び出して来た。それも最高責任者の名を記して、（これは間もなく偽文と判明はしたが）斯うなると頼むは己が心のみかどれほど心細く思つたことか。組織がなければダメだ、官僚構成がものをいうといわれつゞけたその中で、とにもかくにもわが山本女史はあの成績で当選したのである。

この栄冠は勿論女史の項目、多年の御努力と人格識見、それに御子息方をはじめ親しい知友の方々の粉骨砕心の活躍の結果によるものであることは当然であるが、わが日本

（次頁上段へ）

女医会の力もあづかつて効があつたと私は少しばかり自負させて頂き度い。

今度ほど日本女医会が全員一致の形態を整えて応援に乗り出したことはない。何れの県も遜色のない得票数という点から見ても実によく働いている。

かくして山本女史は出たのである。いや出てもらったのである。そして女史は「出してもらった以上は……」と責任のある覚悟のほどをあのように申述べて居られる。がさて私共である。まさか出してあげたんだなどと恩にきせるほどの、うとい会員もいないとは思うが。

政治への窓口を女史が背負つて開いて下さるのである。私共は女史に負目を感じさせるような事はしてはならない。医師として斯くありたい。かくあらねばならぬこと、女性として母としての色々な希望など、充分に考慮、検討の上材料となるべきものを窓口の人のもとまでとゞけなくてはならない。この補給の役が私共のつとめではなからるか。三人寄ればかしましい女の声である。一万有余の女医の声として現在の生々しい医師の在り方を政治の内へ響かせていたゞけたならばPR活動としても大きな価値ではなからるか、女医の力の真の強さを見せるのはこれからである。

れ、つゞいて執筆される心算のところ病没された、その残された資料は目下私のところに保存してある。けれど立派な女医史をつくるためにはまだまだ多くの材料を集めなければならぬ。戦禍で焼失もしたのであろうし、これは相当困難な仕事であらうと思う。

四、出版方法 編集者によつて編集された原稿を印刷出版するこれはだれでも知つておることであるが私はこゝに到つて、これ迄に出した勇氣も知恵も消えてゆくような気持になる。というのは出版費用の問題である。

私達の考えているその日本女医史は一部代金八百円位になると思う。これを日本女医会の会員の半数が買つて下さるとすると、会はこの残与金が出て会の財産が出来る。これは予約出版で行きたいと思う。

五、会員諸氏へのお願い 右の如く計画いたしました何れ近々に具体的な予約申込書類なども出来ると思いますがどうぞ皆さんがこの計画に賛成下さつて、又資料その他について御気付の点などお有りの節は御教示をお願い申し上げます、この事業は皆さんの御支援がなくてはとて出来上りません故どうぞこの年老いたるものの終生の仕事に御同情下さつて、お心添え下さることを祈ります。私は来春から大に馬力をかけて進んでゆく覚悟しております。

## 編集後記

またしても暖冬異変などという言葉が常用語になつてしまふような暖かい師走の一日、編輯子等は素人芸の不馴れに熱心だけを加えて、どりくんだのがこれです。どんな気持ちで読んで下さるか、遠い皆様のお顔を思い浮べながら。

今年には本会にいつては大事変の年でした。吉岡会長の御逝去という大きな悲しみに合い、従つて新会長を定めるといふ新事態。

会員中から参議院議員が出た喜び。三輪田繁子女史が多年の御功績によつて藍授章並びに法務大臣章を授与されたという名誉。志田周子女史が青春三十年を無医村の医療に授けられたその業績が認められて保健文化文化章、厚生大臣章をお受けになつた等々の喜びまことに悲喜こも／＼というべき年でした。

なお本誌について、春秋二回の発行ですが秋には総会もあり、中央の事項をお知らせすることも多々ありますが、春の誌には出きるだけ地方の状況、皆様のお声を戴せ度いものと思つてます。せめて支部単位に一稿以上をお寄せ頂けたならばと大きな念願を一九五九年の最後のお送りものに致したいと存じます。

# 不安・緊張・抑うつ 筋肉緊張痙攣の除去

各科領域に  
適用範囲の  
拡大された

精神神経安定剤

TRANQUILIZER

# アトラキシン

一般名 MEPROBAMATE



- ★ 自律神経系には作用せず、視床に選択的に作用します。
- ★ 筋肉痙攣及び神経性筋肉緊張の除去作用があります。
- ★ 従来催眠剤のように、麻痺的な強制催眠作用はありません。
- ★ 直鎖状の安全な化合物で、事実上毒性はなく、副作用による障害も殆んどありません。



第一製薬  
東京 日本橋

末	25瓦	100瓦	500瓦
錠 (200mg)	12錠	30錠	100錠
		500錠	1000錠

## 90,000医人の週刊医学雑誌

最も親切なる臨牀医家の好伴侶

毎週土曜日発行

定価 B5判  
四ヶ月分 九六〇円  
九六〇円

送料共

# 週刊 日本醫事新報

清新発刺・充実無比

—どの頁を見ても血となり肉となる—

「学説」「学会印象記」「グラビアのページ」「MEDICAL ESSAYS」「ニュース」「一週一話」「質疑応答」「誌友サロン」「閑窓夜話」「東銀座だより」「法令相談室」「代理部だより」「医事案内」その他

—医家必読の有益記事全誌面に満載—

東京都中央区(京橋区区内)銀座東2-11 日本醫事新報社  
TEL 東京銀座(54)3702-3・振替東京25171番

労働大臣許可

# 美德看護婦 家政婦 紹介所

所長 杉本 はな

所在地 東京都新宿区若葉1丁目8番地

電話 四谷 (35) 1 8 0 6 ・ 0 3 5 5

## 業務案内

創業 60 年の看護婦会で 先生方には  
はじめからずつと御支援頂いて居り  
ます なお今後一層のお引立をお願い  
申し上げます

「日本女医会誌」通刊第百二十三号  
昭和三十四年十二月二十五日発行

定価 廿円

発行人 日本女医会  
編集人 福田 幹

発行所 東京都新宿区河田町一九  
至 誠会本部内

印刷所 東京都中央区宝町二ノ七  
秀峰美術印刷株式会社